

経営ワンポイント 2010年1月号  
ことわざに学ぶ経営「初心忘るべからず」

年の初めに因み「初心忘るべからず」ということばにふれてみたいと思います。

室町時代に能を大成した世阿弥の『花鏡』に

是非の(経験の少ない時)初心を忘るべからず  
時々の(ある程度経験を積んでも)初心忘るべからず  
老後の(老いたら老いたなり)初心忘るべからず

とあります。

最近では「初めにたてた志(こころざし)を忘れてはいけない」という意味で使われることが多いですが、世阿弥のいう「初心」とは、若いころの未熟な芸や、年齢ごとの芸の初めての境地を指しており、芸の向上を図るものさしとして「初心」ということばを使っています。

経営にも様々なステージ(段階)があります。経営者として、社員として、また、サービスや商品にも導入期、成長期、成熟期、衰退期というライフサイクルがあります。

「初心忘るべからず」という言葉は、それぞれのステージにおいて、初めての事態に直面した時の対処方法、試練を乗り越えていった経験を忘れてはならないと教えてくれます。

「初心忘るべからず」

◆お問い合わせ先◆

有限会社 神柱会計事務所／神柱税理士事務所  
〒880-0032 宮崎市霧島3丁目96番地2 担当 湯地浩隆  
TEL:0985-27-5722 FAX:0985-27-5999

「あんしん経営をサポートする会」「決算診断実践会」「日本経営コーチ協会」等 会員

